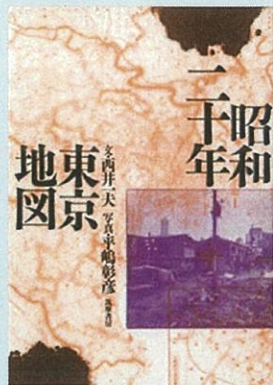


図書館職員がおすすめする本

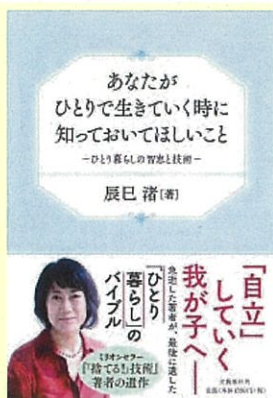
広報誌「ざ・ちゅうおう ぴれす」2019年11月号発行にあたり、中央図書館職員からおすすめする本を募集し、そのうち8点を紹介しました。紙面の関係で掲載できなかったおすすめ本をこちらで紹介しています。



『昭和二十年東京地図』 西井一夫文 平嶋彰彦写真 筑摩書房

中学高校の歴史授業では、お約束のように時間切れで打ち切られる戦後史。令和の時代にあっても心に引っかかる、街角の後ろ暗い影は何なのか。敗戦し他国に占領された街で何が起きていたのか。

誰も語らない、でも誰もが知るべき東京の姿を照らし出した貴重な教科書。



『あなたがひとりで生きていく時に知っておいてほしいこと』

—ひとり暮らしの智慧と技術— 辰巳渚著 文藝春秋

ひとり暮らしを始める方（とその親）に向けて書かれた本ですが、生活を見直したい方にもおすすめです。生活の智慧は勿論のこと、自立とは？生活とは？…

自立を目指すすべての人を応援する著者の暖かい思いがあふれる一冊。息子さんによるあとがきも必読です。



『美しき愚かものたちのタブロー』 原田マハ著 文藝春秋

1920年代から10年ほどの間に世界中の画家から3000点を越える絵画を買い、一大美術コレクションを作り上げた松方幸次郎。

世界大戦や美術界の歴史を入れつつ壮大なフィクションに仕上がっています。



『晴れたら空に骨まいて』 川内有緒著 ポプラ社

避ける事ができない大切な家族との永遠の別れ。

しかし、本書に登場する5つのエピソードは遺された者が悲しみに飲まれる事なく、その人を想いその死を受け入れる愛情が伝わってきます。

人生とは空に還るまでの旅、読んだ後にそんな余韻が残るおすすめの本です。



『東京23話』 山内マリコ著 ポプラ社

「ごきげんよう、あたくし世田谷です。」私たちの住んでいる街が喋り出したらこうなる!?

23区それぞれが一人称となり、自分の街の歴史を振り返るといふ物語。それぞれの街の個性が現れていて、くすっと笑いながら読めます。

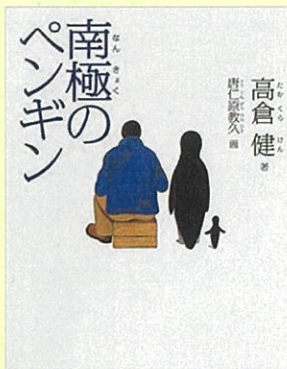
読書が苦手な方にもお薦めです!

『さよなら小松左京—完全読本—』 小松左京ほか著 徳間書店

日本SF界の巨星・小松左京のパーフェクトガイド。

小松氏は自然科学、社会学、哲学などの知識を生かして、それまで風刺を利かせた短い作品で人気を得ていた穴埋め的なエンターテインメントとされていたSFを別の方向へと向かわせる。

手塚治虫との対談CD付き。



『南極のペンギン』 高倉健著 集英社

小学生の頃、映画「南極物語」に感動した私がタイトルに魅かれて手にした本書。

10編の短いお話は、俳優の故高倉健さんによるもの。

ノンフィクションでありながら、唐仁原さんの鮮やかな絵とともに、映画や物語に触れているような気分になる素敵な本です。



『1945 鉄原 (チョロン)』 イ・ヒョン著 影書房

1945年8月15日、解放の日。朝鮮半島のほぼ真ん中に位置する鉄原で少年少女達が動き始める。

映像を見ているような躍動感。韓流ドラマ好きの私は、「この子にはあの子役を」と仮想キャスティング。

登場人物の一人一人が魅力的な韓国のYA小説。



『怖い絵』 中野京子著 朝日出版社

以前「怖い絵展」が開催されたこともあり、読んだ方も多いかもしれません。

この本では美しい絵画に潜む恐怖を解説します。それは作者の悪意や思想によるものから、描かれた時代背景によるものまで様々です。その恐怖に惹きつけられ、目が離せなくなります。